



川根地域新茶初取引開所式

4月25日(木)、大井川農協中川根支店で行われた川根地域新茶初取引開所式。今年の市場を占う大事な式典ということもあり、茶商・茶農家・JAのおいがわの職員など関係者約150人が集まりました。

今年は降雨量が少ないことに加え、3月中にあまり気温が上がらなかったことや、4月の初頭に町内の一部で雪が降るほどの寒波が襲来したことによる発育不良が影響し、さらに前日が雨となったことから出品は2口11キロという異例の少なさとなりました。

初取引では、唯一出品が間に合った下長尾の高木郷美さんのお茶が、昨年を上回る1キロあたり3万8千888円で落札され、初取引の平均単価は2万2千444円となりました。

前日の雨は今回の初取引の出品数に影響を及ぼすこととなりましたが、集まった茶業関係者や来賓の方々からは「まさに恵みの雨」と茶時への期待を持つ声が多く聞かれました。



平成31年献茶式・川根茶の日

4月20日(土)、水川の茶茗館において平成最後となる献茶式が挙行されました。この式典は、神職による祈禱にあわせ、特別に栽培した茶葉から製造した「手揉み茶」を川根茶の碑に献茶することにより、一堂に介した町茶業関係者がその年の茶業の盛況を祈念するとともに、茶業のより一層の振興を図ることを目的として川根本町茶業振興協議会が主催しています。

献茶式に併せて実施されるのが、「川根茶の日」記念イベント。これは立春から七十七夜目に当たる4月21日が「川根茶の日」とし



て制定され、「日本記念日協会」に登録されていることちなみ、記念行事として川根お茶街道推進協議会により開催されているものです。

当日は、手揉み保存会による手揉み茶の体験や、茶業青年団による茶歌舞伎(きぎ茶)といったお茶に関する催しが行われたほか、地元川根高校の吹奏楽部による演奏や郷土芸能部による赤石太鼓の披露、静岡出身のシンガーソングライターによるミニライブなどが行われ、会場に訪れた多くの方がさまざまな形でお茶にふれあう場となりました。

①手揉み保存会から今年の献茶を受け取る ②茶の手揉みに挑戦する来場者親子 ③4種類のお茶から品種を当てる茶歌舞伎 ④吹奏楽部による演奏 ⑤もち投げは年齢問わず大人気 ⑥茶茗館内の川根茶体験には約400人が来場しました

令和元年度 第73回 全国茶品評会へ向けて



5月の上旬から中旬にかけて今年度の全国茶品評会出品茶の摘採と製造が実施されました。それぞれの茶園で丹精込めて育てられた出品茶は、ボランティアや関係者などの「お茶摘みさん」の手により、「二芯二葉」で丁寧な摘み取られました。

育成が早かった昨年度からおよそ10日、例年よりもやや遅れたの摘採作業となりました。

出品農家からは「昨年夏の高温や断続的な小雨に加え、春先の気温上昇が遅かったのが生育に影響したが、出品茶については十分な質を確保することができた」との声が聞かれました。

今年度の参加部門と農家

普通煎茶 4kg の部	相藤農園 相藤直紀
	相藤園 相藤令治
	川崎好和
普通煎茶 10kg の部	つちや農園 土屋鉄郎
	丹野園 丹野浩之
釜炒り茶の部	小平園 小平史郎
	橋本立生

敬称略

今年度の全国茶品評会は、愛知県西尾市で開催される「全国お茶まつり愛知大会」にあわせ、9月中旬に実施されます。

また、品評会出品茶の入札販売会は9月19日(木)に、同じく西尾市で実施されます。